

# 日本珪藻学会第33回研究集会プログラム

期 日：2013年11月15日（金）～17日（日）  
会 場：琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設  
（〒905-0227 沖縄県国頭郡本部町瀬底 3422 番地）

学会会長：真山 茂樹  
集会会長：須田彰一郎

\*集会が準備するレンタカーに分乗される方は、那覇空港国内線1階・到着ロビーB 出口側の熱帯魚水槽前にお集まりください。レンタカーは複数台あります。人数が集まり次第出発します。最後の出発は14時00分となります。15日当日の連絡先は（須田 携帯：090-1366-4601）です。航空機の遅れ等で間に合わなかった方は、高速バスで名護バス停（終点）までお出で下さい。上記携帯にご連絡いただければお迎えに上がります。

## 第1日 11月15日（金）

15：30 ～ 受付，ポスターの掲示  
16：15 [写真撮影]  
16：25 開会 学会会長・研究集会会長挨拶

《国際ミニシンポジウム：東アジアの珪藻 発表15分 質疑5分》 【進行 真山茂樹】  
講義室

- 16：30 (1) Shinya Sato (Yamaguchi University, Japan) ～Invited speaker～  
Life history of diatoms
- 16：50 (2) Gyeongje Joh (Inje University, Korea)  
Biodiversity of benthic diatoms in mountain peatlands and the intertidal sandflats of the Nakdong River estuary, South Korea
- 17：10 (3) Yahui Gao (Xiamen University, China)  
Observations on valve deformation of a marine diatom *Pseudo-nitzschia multiseries*
- 17：30 (4) Matthew Julius (St. Cloud State University, U.S.A.)  
Divergent homologies distinctive of Thalassiosiroid diatoms from Eastern Asia, especially Japan
- 17：50 (5) Noriaki Nakamura<sup>1</sup>, Hiroki Isoyama<sup>1</sup>, Tomoko Yuasa<sup>1</sup>, Kazuhiko Fujita<sup>2</sup> and Shigeki Mayama<sup>1</sup> (1. Tokyo Gakugei University; 2. University of the Ryukyus, Japan)  
Organic layers covering protoplasts of marine epipsamic diatoms *Pseudoleyanella* and *Psammoneis*.
- 18：10 (6) Ae Suk Jeong (Daegu University, Korea)  
Diatom assemblages distribution along environmental gradients and estimates of species optima and tolerance for nutrients in the Nakdong River, Korea
- 18：30 総合討論

18：45 近隣のレストラン（レストランハワイ）へ移動・夕食  
\*この食費も参加費に含まれます。追加注文や飲み物は各自お支払い下さい。

## 第2日 11月16日（土）

《講演：ポスター発表》  
8：30～9：40 会場1（1題につき3分の発表，演題(7)～(18)，討論時間30分）

9:50~11:00 会場2 (1題につき3分の発表, 演題(19)~(30), 討論時間30分)

会場1 学生実験室

【進行 大塚泰介】

- (7) ○Gyeongje Joh (Inje University, Korea)  
Aulacoseira diatoms occurring in mountain peatlands of South Korea
- (8) ○Gyeongje Joh (Inje University, Korea)  
Diatom flora of the old genus *Navicula* on intertidal sandflats in the Nakdong River estuary, South Korea
- (9) ○伊藤綾奈(東学大・教)・真山茂樹(東学大・教)  
多摩川河口における珪藻フロアの予備的研究
- (10) ○今村 悠(東理大・理)・堀駿一朗(東理大・理)・大野智宏(東理大・理)・真山茂樹(東学大・教)・梅村和夫(東理大・理)  
培地温度及び基板が *Nitzschia palea* の運動に与える影響
- (11) ○佐渡谷雄介(東理大・理)・長尾一希(東理大・理)・及川良太(弘大・理工)・花田修賢(弘大・理工・理研)・杉岡幸次(理研)・真山茂樹(東学大・教)・梅村和夫(東理大・理)  
二次元動画解析による珪藻運動のベクトルの定量評価
- (12) ○Intana Chanthirath (St. Cloud State University, U.S.A.)  
Floating frustules: Why do some siliceous components sink and others float, observations of *Cyclotella meneghiniana* in mass culture
- (13) ○千葉 崇(筑波大)・藤野滋弘(筑波大)・小堀詠美(筑波大)  
徳島県田井ノ浜で掘削されたボーリングコアから産出した珪藻化石群集と古環境
- (14) ○松岡孝典・南雲 保(日歯大・生命歯学部・生物学教室)  
長崎県五島列島久賀島で採取した *Nitzschia* sp. の殻微細構造の観察
- (15) ○滝本彩佳(海洋大・藻類)・鈴木秀和(海洋大・藻類)・坂西芳彦(水研セ・日水研)・阿部信一郎(水研セ・日水研)・南雲 保(日歯大・生物)・田中次郎(海洋大・藻類)  
新潟県佐渡島産海草アマモ類の付着珪藻相
- (16) ○宮内麻由美(海洋大・藻類)・鈴木秀和(海洋大・藻類)・松岡孝典(日歯大・生物)・南雲 保(日歯大・生物)・田中次郎(海洋大・藻類)  
管状群体を形成する海産珪藻 *Berkeleya* 属の形態と分類
- (17) ○金子詩歩(海洋大・藻類)・鈴木秀和(海洋大・藻類)・宮崎奈穂(海洋大・生物海洋)・南雲 保(日歯大・生物)・田中次郎(海洋大・藻類)  
東京湾芝浦運河岸壁の付着珪藻相
- (18) ○Kang Ijin (Kyushu University)・Kaoru Kashima (Kyushu University)  
Diatom assemblages in coastal lakes in Antarctica and their applications to Quaternary environmental studies

会場2 食堂

【進行 辻彰 洋】

- (19) ○田村 裕(沖縄県宮古農林水産振興センター)  
岩礁潮間帯における浮遊粘液フロクの形成が確認された場所の珪藻相
- (20) ○天田 啓(福岡工大・工・生命環境科学科)  
マレーシアで分離した珪藻の同定と培養
- (21) ○大塚泰介(琵琶湖博物館)・有田重彦(たんさいぼうの会)  
八幡湿原(広島県山県郡北広島町)の珪藻
- (22) ○溝渕 綾(広島県環境保健協会)・半田信司(広島県環境保健協会)・中野武登(広島生物環境研究所)  
島根県斐伊川に生育する大型珪藻 *Surirella* sp. の形態と生態
- (23) ○組坂健人(九州大学)・鹿島 薫(九州大学)

- 秋田県目潟湖沼群の珪藻群集
- (24) ○黒田知子 (九州大学) ・鹿島 薫 (九州大学)  
 沖縄本島羽地内海と塩屋湾の珪藻群集
- (25) ○原 陽太 (海洋大・藻類) ・鈴木秀和 (海洋大・藻類) ・南雲 保 (日歯大・生物) ・田中次郎 (海洋大・藻類)  
 沖縄県西表島沿岸の砂地に生育する付着珪藻相
- (26) ○三瓶ゆりか (海洋大) ・鈴木秀和 (海洋大・院・藻類) ・山城秀之 (琉球大・熱生研) ・南雲 保 (日歯大・生物) ・田中次郎 (海洋大・院・藻類)  
 Morphology of two araphid diatom species on the coral from Nago, Okinawa
- (27) ○吉田野空海 (海洋大・院・藻類) ・鈴木秀和 (海洋大・院・藻類) ・南雲 保 (日歯大・生物) ・田中次郎 (海洋大・院・藻類)  
 東京湾産付着珪藻 *Melosira moniliformis* と *Pleurosira laevis* の天然での増大胞子形成の動態・第4報
- (28) ○辻 彰洋 (国立科学博物館・植物研究部)  
 海外調査で必要になる様々な手続きについて
- (29) ○鹿島 薫 (九州大)  
 珪藻遺骸を用いた津波堆積物・波浪堆積物の判定の可能性
- (30) ○篠原耕平 (河辺いきもの森) ・丸山敦 (龍谷大学・理工) ・Bosco Rusuwa (Department of Biological Sciences, Chancellor College) ・大塚泰介 (琵琶博)  
 Taxonomic revision of three diatoms found in Lake Malawi; *Afrocybella brunii* (Fricke) comb. nov., *Afrocybella rossii* (Kocielek & Stoermer) comb. nov., and *Aulacoseira euareolata* (O.Müller) comb. nov. et nom. nov.
- (31) ○Matthew Julius<sup>1</sup>, William Gorcica<sup>1</sup> and Shigeki Mayama<sup>2</sup> (1. St. Cloud State University, U.S.A.; 2. Tokyo Gakugei University, Japan)  
 Leveling up: Adding a macroscale gamescape to SimRiver a widely adopted environmental education software tool

《珪藻採集会》

11:20~15:00 海水コース (備瀬崎), 淡水コース (源河川) を予定。

15:30 実験室で珪藻の顕微鏡観察

<オプションツアー (美ら海水族館見学) 16:00~17:30>

19:00 バーベキュー懇親会

**第3日 11月17日 (日)**

《最終討論および閉会》 8:30~9:00

講義室

ポスター撤収, 荷物のまとめ, 片付け, 宿舎の掃除等

9:30 那覇空港に向けて出発

\* オプションとして、途中、首里城で下車し観光することも可能です。その場合、首里城観光後、那覇空港までの道のりは学会準備のレンタカーは利用できません。モノレール (ゆいレール) をご利用下さい。守礼門~首里駅 徒歩 15 分 (バスもあります)、首里駅~那覇空港 27 分。